

名護市の遺跡

(1)

分布調査中間報告

1981年3月

名護市教育委員会

はじめに

これまで、名護市にどれだけの遺跡があるのか、ほとんどわかっていませんでした。わからぬままに破壊された遺跡も多かろうと思われます。市教育委員会では、ここ一年余り市内の遺跡（埋蔵文化財）の分布調査を進めてまいりました。その結果、50カ所の遺跡を発見し、確認しました。

この調査は、昭和54年度に行なった久志貝塚緊急発掘調査、屋我グシク発掘調査に続くもので、これらの調査から、各部落の成りたち、ひいては名護市の歴史を明らかにするうえで、多くの貴重な資料を得ることができました。

この『名護市の遺跡—1』（分布調査中間報告）は、これまでの調査のあらましをまとめたものであります。私たちの名護市に、どのような遺跡がどこにあるのかを知る道案内として、また、公共工事や個人の開発による遺跡の破壊を未然に防ぎ、私たち共有の文化遺産である遺跡を保護していくことに、この小冊子が役立てばと希望いたします。

市内にはまだまだ多くの遺跡があると思われます。この調査も、さらに向こう一年引き続き進める計画です。市民みなさんの一層の関わりと協力をお願いいたしたく存じます。

終りに、この調査に直接、間接協力をいただいた方々に、記してお礼を申し上げます。

1981年3月

名護市教育委員会

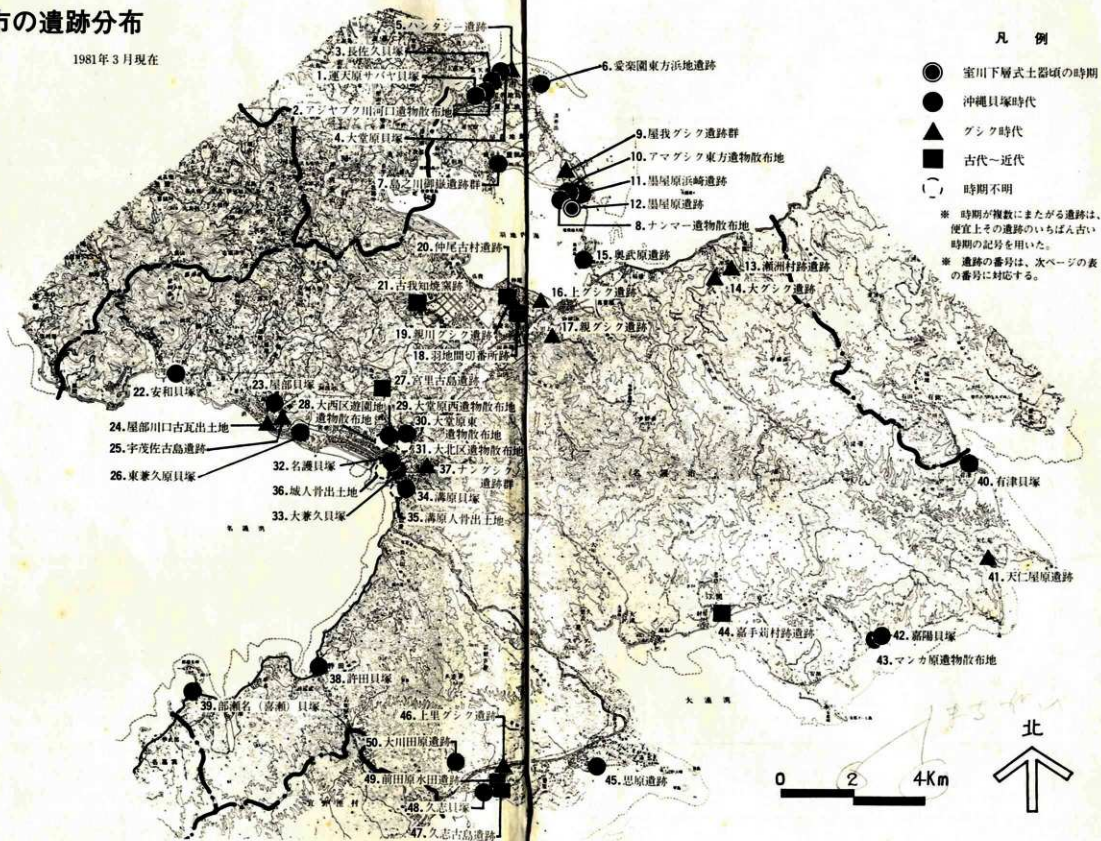
教育長 比嘉太英

目 次

名護市の遺跡の特色	1
名護市の遺跡分布	2
名護市の遺跡一覧表	4
屋我地・羽地地区	8
名護・屋部地区	10
久志地区	12
遺跡の保護に向けて	14

名護市の遺跡分布

1981年3月現在



の 市 護 名

地区	図番号	遺 跡 名	所在地	時 期
我 地	1	運天原サバヤ貝塚	運天原	前期、中期 後期(?)
	2	アジャブク川河口 遺物散布地 (仮称)	運天原 済井出	(不明)
	3	長佐久(ナガサク)貝塚	済井出	後期
	4	大堂原貝塚	済井出	前期、後期
	5	ハンタジ-遺跡 (仮称)	済井出	グシク時代
	6	愛楽園東方浜地遺跡 (仮称)	済井出	前期、後期?
	7	島之川(シマヌハー)御嶽遺跡群	鏡平名	後期 グシク時代~近代
	8	ナンマー遺物散布地	鏡平名	後期
	9	屋我グシク遺跡群	屋我	グシク時代~近世
	10	アマグシク東方遺物散布地	屋我	後期(?)
	11	墨屋原(スミヤバル)遺跡	屋我	早期、前期、後期
	12	墨屋原浜崎遺跡	屋我	中期、後期?
羽 地	13	瀬洲村(シームラ)跡遺跡	源河	グシク時代~近代
	14	大(ウー)グシク遺跡	源河	グシク時代~近代
	15	奥武原遺跡	真喜屋	中期、後期?
	16	上(ウィー)グシク遺跡	仲尾次	グシク時代~近世
	17	親(ウェー)グシク遺跡	川上	グシク時代~近世
	18	羽地間切番所跡	親川	近世
	19	親川グシク遺跡	親川	グシク時代?
	20	仲尾古村遺跡	仲尾	近世
	21	古我知焼窯跡	古我知	近世
屋 部	22	安和貝塚	安和	後期
	23	屋部貝塚	屋部	後期
	24	屋部川口古瓦出土地	宇茂佐	グシク時代

遺 跡 一 覧 表

1981年3月現在

立 地	現 況	保 存 状 況	開 発 計 画	備 考
岩 陰 丘 陵 下	原野、畑地	●		県指定史跡 1956年 遺物包含層を有する
河 口	河 口	?		
海岸平野	原野、畑地	◎	土地改良	
砂 丘	原野、畑地、浜	●		採砂により一部破壊
崖 下	原 野	●		遺物包含層の緊急保護が必要
海 浜	浜	?		
洞穴・丘陵 及び その周辺	原野、畑地 宅 地	●		鏡平名の古集落跡 農道により一部破壊
浜 地	原野、畑地、浜	○		
丘 陵	原野、畑地	○		屋我の古集落、80年発掘調査
丘 陵 下	原野、畑地	?		
海浜海底	原野、浜、海底	●	港湾計画	名護市で最古の遺跡
海岸平野	原野、畑地	◎	団地建設	集落跡? '80年9月試掘調査
丘陵斜面	原野、畑地	◎		源河の前集落跡の一つ
丘 陵	原野、畑、宅地	○	道路工事	源河の前集落跡の一つ
海岸平野	畑 地	○	土地改良	1980年9月、試掘調査
丘 陵	原野、畑地	○	土地改良	
丘 陵	原野、畑地	●		川上の古集落跡?
丘 陵	原野、畑地	●	土地改良	
丘 陵	原野、畑地	◎	土地改良	石垣、遺物包含層を有する
小 谷	原野、畑地	●	土地改良	仲尾の前集落跡
丘 陵	原野、畑地	●	土地改良	県指定史跡 1972年
砂丘上	原野、畑、宅地	●	道路改良	1980年10月、試掘調査
砂丘上	原野、畑、宅地	●	土地改良	1980年7月、試掘調査
河 口	河 口	?		

地区	図番号	遺跡名	所在地	時期
屋部	25	宇茂佐古島遺跡	宇茂佐	グシク時代～近代
	26	東兼久原貝塚	宇茂佐	後期～グシク時代
名護	27	宮里古島遺跡	為又	近世
	28	大西区遊園地遺物散布地 (仮称)	大西区	(不明)
	29	大堂原西遺物散布地 (仮称)	大西区	後期
	30	大堂原東遺物散布地 (仮称)	大北区	後期
	31	大北区遺物散布地 (仮称)	大北区	(不明)
	32	名護貝塚	大中区	後期
	33	大兼久貝塚	大中区	後期、
	34	溝原 (ミズバル) 貝塚	東江	後期、近世?
	35	溝原人骨出土地	東江	(不明)
	36	城 (グシク) 人骨出土地	城	(不明)
	37	ナングシク遺跡群	城	グシク時代～近代
	38	許田貝塚	許田	後期
	39	部瀬名貝塚	喜瀬	後期
久志	40	有津 (アツ) 貝塚	天仁屋	前期
	41	天仁屋原遺跡	天仁屋	グシク時代～近代
	42	嘉陽貝塚	嘉陽	後期～グシク時代
	43	マンカ原遺物散布地	嘉陽	後期?
	44	嘉手苜村跡遺跡	汀間	近世～近代
	45	思原 (ウムイバル) 遺跡	辺野古	後期?
	46	上里グシク遺跡	久志	グシク時代?
	47	久志古島遺跡	久志	近世～近代
	48	久志貝塚	久志	後期～グシク時代
	49	前田原水田遺跡	久志	古代～近代
50	大川田原遺跡	久志	前期	

注1：前期、中期、後期というのは沖縄貝塚時代の時期区分である。編年表参照。

立地	現況	保存状況	開発計画	備考
小谷	原野、畑地	●	土地改良	宇茂佐の前集落跡
砂上	宅地、畑地	●		
丘陵	原野	●	国道工事	宮里の前集落跡、採土で破壊
台地斜面	畑地、公園	●	街路計画	
丘陵凹地	畑地	○	街路計画	
山裾	原野	●	街路計画	宅地造成により一部破壊
?	畑地	●	街路計画	大堂原東遺物散布地の一部?
砂丘上	宅地、道路	●		宅地造成で破壊続く
砂丘上	宅地、道路	●		名護貝塚の一部?
砂丘上	宅地、道路	●		
砂丘上	宅地	●		
砂丘上	宅地	●		
丘陵斜面	原野、畑、公園	◎		城の古集落跡
砂丘上	畑地、宅地	◎		
砂丘上	畑、道路、公園	◎	国道工事	喜瀬貝塚とも呼ばれる
山裾～岸	原野、道路	?		県道により一部破壊
台地上	原野、畑、宅地	●		天仁屋の古集落跡
砂丘上	畑地、宅地	●	土地改良	宅地造成により破壊継続
河岸	畑地	?		
河岸低地	畑地	●		汀間の前集落
河口	原野	?		キャンプシュワープ内
丘陵上	原野	●		久志の古集落跡?
台地	原野、畑地	◎		久志の前集落跡
砂丘上	宅地	●		集落跡、1979年発掘調査
谷口斜面	原野、畑地	○	土地改良	水田跡、1979年発掘調査
低地?	河川、湿地	●	土地改良	出土遺物は客土内?

注2: 保存状況は、○ 包含層の保存が良好 ◎ 保存がやや良好 ● 破壊が著しい

屋我地・羽地地区

屋我地地区の遺跡は、現在12カ所発見されている。それらは、北側と南側に大きく二つに分けられ、それぞれ古い時期から新しい時期の遺跡へと連続している。とくに屋我グシク遺跡群や、饒平名島之川御嶽遺跡群は、それぞれの部落が現在の位置に移ってくる以前の部落跡と想定される。屋我地地区の分布調査は開発予定地域のほぼ全域を完了した。

羽地地区は、調査が不十分なために貝塚時代の遺跡が少ない。源河の二つの遺跡や仲尾古村遺跡は、現在の部落の成り立ちを知る上に重要である。また親川グシク遺跡は14～15世紀頃の遺跡と想定され、この地区では規模の大きなグシクである。



古我知焼窯跡

沖縄の代表的な古窯の一つ。県指定史跡。心ない人たちの盗掘により荒れている。

親川グシク遺跡

羽地、屋我地地区ではもっとも規模の大きいグシク。石垣の遺構や遺物包含層を確認。

羽地間切番所跡

番所跡。一部道路、畑によって破壊。赤瓦、陶器など採集。

上グシク遺跡

羽地中学校裏の森。南側斜面下に遺物包含層あり。

親グシク遺跡

石垣遺構あり。



運天原サバヤ貝塚

県指定史跡

島之川御嶽遺跡群

貝塚時代後期末～近代までの6カ所の小貝塚からなる。後期末の貝塚より小さな盃形の土器出土。

羽地内海

奥武原遺跡

屋我仲尾古村遺跡

古我知

振摩名

川上

我部祖河

田井等

仲尾次

内原

親川

羽地

伊差川

山田

ウィー

ウィー

大堂原貝塚

沖縄貝塚時代前期と後期の貝塚。
採砂により破壊。

ハンタジー遺跡

崖の割れ目に遺物包含層が堆積。

愛楽園東方浜地遺跡

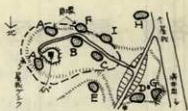
海浜から大山式土器を採集。

長佐久貝塚

沖縄貝塚時代後期の尖底土器とく
びれ平底土器が出土。

アジャブク川河口遺物散布地

河口の砂浜から土器が拾える。詳
細は不明。



屋我グシク遺跡群

グシク時代から近代まで、8カ所
の遺跡からなる。住居址や祭祀場
の遺構、鍛冶場跡?などを確認。

アマグシク東方遺物散布地

墨屋原浜崎遺跡

市営住宅建設予定区域にあり。試
掘の結果、石敷遺構を確認。

墨屋原遺跡

約4,500年前の室川下層式土器
とその前後に位置づけられる土器
を採集。海浜の遺跡。

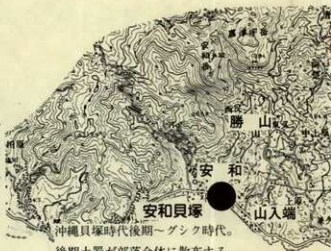
ナンマー遺物散布地

小規模な海岸平野に立地。



名護・屋部地区

名護・屋部地区では18カ所の遺跡が確認された。これらは沖縄貝塚時代後期から近世、近代までの時期に位置づけられる。市街地内の遺跡は宅地造成によって破壊されたものが多い。今後の調査によって、さらに遺跡の発見が予想される地域である。とくに、名護グシクは、現在の市街地をつくる元部落の成り立ちを明らかにする上で重要な遺跡であり、詳しい調査が求められる。



沖縄貝塚時代後期～グシク時代。
後期土器が部落全体に散布する。
とくに西側に集中。グシク時代の中心部は不明。

屋部貝塚

沖縄貝塚時代後期。久護の砂丘上に立地。

屋部川口古瓦出土地

高麗系古瓦と称される古瓦が出土。1960年、大川清氏が屋部橋付近で採集した。

宇茂佐古島遺跡

グシク時代～近代。伝承では宇茂佐の古部落と言われる。

東兼久原貝塚

沖縄貝塚時代後期。後期末の土器が出土。

フシナ

部瀬名(喜瀬)貝塚

部瀬名岬のつけ根付近の砂地に立地。国道の下にひろがっていたと思われる。北側の海中公園側は破壊されてしまったようだ。南側のサトウキビ畑から土器が採集される。





宮里古島遺跡

宮里の古部落といわれている。一帯はパイン畑の造成や耕作によって、かなり破壊されている。沖縄製陶器が採集される。一片だけ青磁片も採集。

大西区遊園地遺物散布地

大堂原西遺物散布地
丘陵の低地に立地。黒褐色土壌で保存状態が良好。

大堂原東遺物散布地
舌状の小台地上に沖縄貝塚時代後期の土器片が散布。

大北区遺物散布地
ナングシク遺跡群
グシク時代～近代。丘陵部に立地。斜面を中心に遺物が採集される。瓦や数種類の石器も採集された。



名護貝塚
沖縄貝塚時代後期。宅地建設でかなり破壊。

城人骨出土地

大兼久貝塚
宅地建設でかなり破壊。

溝原人骨出土地

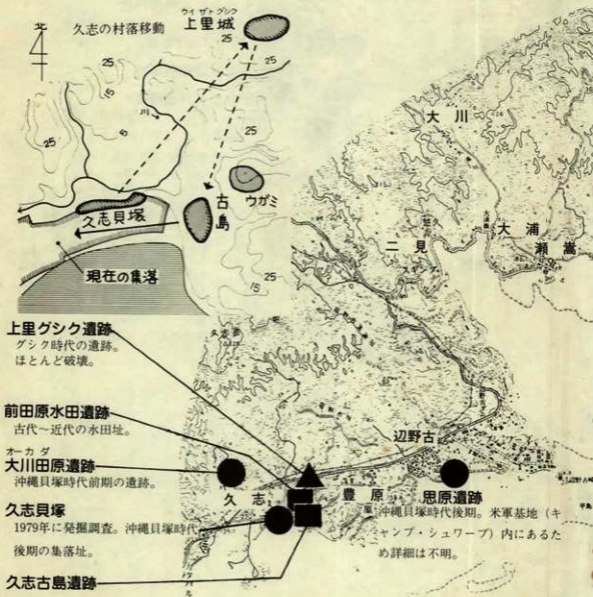
溝原貝塚

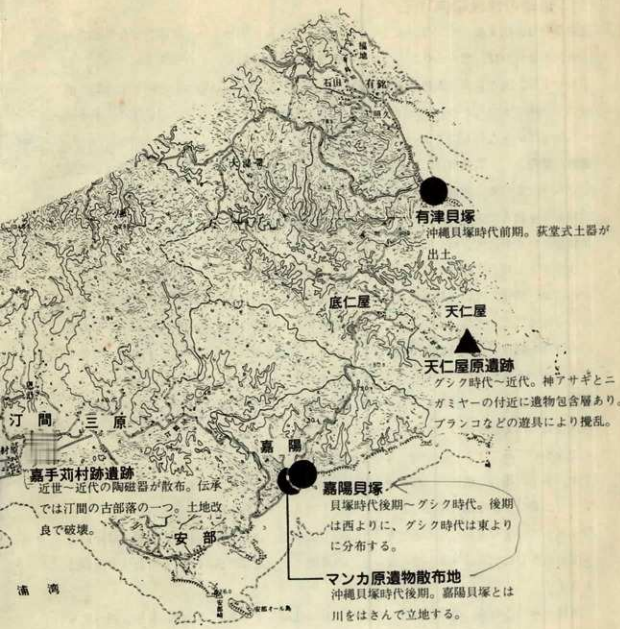
沖縄貝塚時代後期。尖底土器が出土。

許田貝塚
沖縄貝塚時代後期。福地川の河口の砂地上に立地。

久志地区

久志地区は調査が不十分なため、地区の広さに比べて、確認された遺跡数が11カ所と少ない。くわしく調査が行なわれた久志部落では、沖縄貝塚時代前期から近代までの遺跡が発見されているので、他の地域でも、今後の詳しい調査によって、新たに発見される遺跡が多いことと思われる。





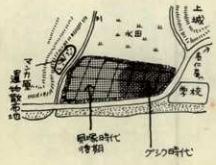
有津貝塚
 沖縄貝塚時代前期。萩堂式土器が出土。

天仁屋
天仁屋原遺跡
 グシク時代～近代。神アサギとニガミヤの付近に遺物包含層あり。ブランコなどの遊具により擾乱。

嘉手刈村跡遺跡
 近世～近代の陶磁器が散布。伝承では汀間の古部落の一つ。土地改良で破壊。

嘉陽貝塚
 貝塚時代後期～グシク時代。後期は西よりに、グシク時代は東よりに分布する。

マンカ原遺物散布地
 沖縄貝塚時代後期。嘉陽貝塚とは川をはさんで立地する。



遺跡の保護に向けて

遺跡を守り、伝える このようなファーフジ（祖先）がつくった生活と文化の跡である遺跡がなければ、恐らく私たちは地域の歴史を具体的に知ることができないだろう、と思われまふ。家々にある先祖のトートメーを粗末にする人はいないのと同じように、地域のファーフジたちがのこした拝所や生活の場（遺跡）を、私たちは大切に守り、子々孫々へ伝えていきたいものです。

遺跡と開発 名護市は、旧島尻郡よりも広く、また土地改良など、公共事業が他地域にくらべてより多く計画され、進行しています。都市化の動向の中で、個人や団体による開発も年々増えてきています。いいかえると、遺跡（埋蔵文化財）が誰も気がつかない間に破壊される可能性が増えているわけです。

少なくとも無為な破壊から、私たちは遺跡（埋蔵文化財）を守っていく必要があります。これには、開発にはいる前のできるだけ早い時期に遺跡の存在とその性格や意義について詳しく知ることが必要になります。そしてそれによって、開発計画の中に、あらかじめ遺跡の保存を組み入れることができます。その際、市民みんなが身近な遺跡を知り、理解することが、それを実現する大きな力、支えになります。

遺跡を見つける 遺跡をみつけることは、難しいことではありません。ひとつには、地域の言い伝えが手掛りです。この部落はあの丘から移ってきた——という話があれば、そこを歩いてみて下さい。今使っている皿や茶碗と少しちがった昔のものが見つかるはずです。多くの場合、遺跡の一部は地表にあらわれているからです。また、土地が少し開けていて、昔はいい生活の場だったろうと思われるあたりを歩いてみて下さい。土の中に貝殻が混っていませんか。よくみるとうす緑色した厚手の磁器や土色をした土器の破片が黒っぽい色をした土にはさまっているかもしれません。そこは、遺跡である可能性が大いにあります。

遺跡をみつけたら、教育委員会か市の博物館に連絡して下さい。一緒に詳しく調べてみたいと思います。

これまで発見した遺跡や、詳しい調査を行った遺跡から出土した土器や石器、生活遺物が、現在約13,000点ほど名護市の博物館に保管されています。これらは、生きた歴史の資料、生きた地域の教材です。手にしてみると数千年の時間をとびこえて、昔のファーフジの生活が伝わってくるようです。

なお、市内の遺跡分布調査は、もう一年続け、この報告書をふまえて来春には詳しい報告書を作成する計画です。

R-11
K-202

名護市の遺跡(1) - 発掘調査中間報告

名護市教育委員会 編

2. 2. 1981

179

※ 名護市文化財調査報告 - 3

58. 2. 15

書

名護市史編さん室



179

名護市の遺跡(1)
—分布調査中間報告—

編・発行 1981年3月15日

名護市教育委員会

名護市名護1188番地

☎ 09805(2)2819

印刷 崎浜印刷所

名護市名護437番地

☎ 09805(2)2740
